



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of : THE COMMISSIONER IS AUTHORIZED
Hiroaki OKITA : TO CHARGE ANY DEFICIENCY IN THE
Serial No. 10/750,842 : FEES FOR THIS PAPER TO DEPOSIT
Filed January 5, 2004 : (COUNT NO. 23-0975)
: **Attn: APPLICATION BRANCH**
: Attorney Docket No. 2003_1923A

A DISK STORAGE CASE FOR A
RECORDING MEDIUM

CLAIM OF PRIORITY UNDER 35 USC 119

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

Applicant in the above-entitled application hereby claims the date of priority under the International Convention of Japanese Patent Application No. 302132/2003, filed August 26, 2003, as acknowledged in the Declaration of this application.

A certified copy of said Japanese Patent Application is submitted herewith.

Respectfully submitted,

Hiroaki OKITA

By

Michael S. Huppert
Registration No. 40,268
Attorney for Applicant

MSH/kjf
Washington, D.C. 20006-1021
Telephone (202) 721-8200
Facsimile (202) 721-8250
March 11, 2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 8月26日
Date of Application:

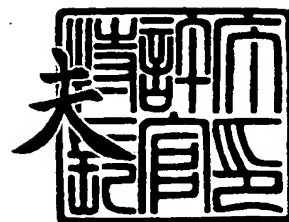
出願番号 特願2003-302132
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2003-302132]

出願人 株式会社レッツ・コミュニケーションズ
Applicant(s):

2004年 1月16日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康



出証番号 出証特2004-3000205

【書類名】 特許願
【整理番号】 PY7460
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿
【国際特許分類】 B65D 85/57
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都中央区東日本橋 1 丁目 2 番 1 0 号 株式会社レッツ・コミュニケーションズ内
 【氏名】 沖田 広明
【特許出願人】
 【識別番号】 502202801
 【氏名又は名称】 株式会社レッツ・コミュニケーションズ
【代理人】
 【識別番号】 100081949
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 神保 欣正
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 068767
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

内部にディスクを収容する空間を設けた偏平形状の筐体を、厚み方向の一側に位置する背板片と、表裏方向に位置するケース片とに三分割し、背板片に対して表裏のケース片をヒンジにより擺動自在に連結することにより開放時に見開き状となるように構成したケース本体と、背板片に対して突設してディスクを直径方向に摺持するホルダー部材からなり、上記ホルダー部材は円弧状の内周面にディスクの周縁が嵌入される溝を配することにより円弧の開口側から挿入されたディスクを内周面により摺持する構成とし、ケースの閉止時にホルダー部材の円弧の開口側が向くケース片の厚み方向に位置する正面壁に、ディスクが上記開口側に向かって進入可能な窓部を設けると共に、被蓋しようとする附勢力に抗してディスクの押圧によりホルダー部材側に押し開き可能な閉止部材により上記窓部を被蓋したことを特徴とする記録媒体用ディスク収納ケース。

【請求項 2】

開口側が狭窄された円弧状のアームによりホルダー部材を構成すると共に、開口側から挿入されるディスクがアームの狭窄箇所を押し広げながらアーム内周に嵌入可能なように上記ホルダー部材を弾性を有する素材により構成した請求項 1 記載の記録媒体用ディスク収納ケース。

【請求項 3】

ケースの開放時に表裏のケース片の擺動方向に揺動可能にホルダー部材を背板片に枢設すると共に、上記揺動範囲をホルダー部材が表裏のケース片に重ならない範囲内に規制する請求項 1 又は 2 記載の記録媒体用ディスク収納ケース。

【書類名】明細書

【発明の名称】記録媒体用ディスク収納ケース

【技術分野】

【0001】

この発明はCDやDVD等の記録媒体用のディスク（以下、「ディスク」と略称する。）を収容する開閉式のケースに関する。

【背景技術】

【0002】

映像や音楽、それにコンピュータプログラム等の記録媒体としてCDやDVD等のディスクが普及している。これらは、光学記録方式を採用しているために記録面を保護する必要がある、封筒状の収納ジャケットや収納ケースが不可欠となる。

【0003】

このうち、後者の収納ケースは、蓋体を枢設した上面開放の偏平状のケース内に弾性力に抗して直径方向に縮径可能な係合突体を突設し、ディスクのセンターホールにこの係合突体を圧入することによりケース内にディスクを固定している。

【0004】

一方、前記のような係合突体を使用しないでディスクを収納ケース内に固定する発明も提案されており、下記の特許文献1においてはディスクが載置される保持体（同文献図中符号7）上にディスクの外周に沿って複数の係止片（同文献図中符号10）を突設し、これらの係止片と保持体間にディスクを挿入している。又、下記の特許文献1においては開口側が狭窄された円弧状のアームからなるホルダーによりディスクを直径方向に挾持している。

【特許文献1】特開2001-180780号公報

【非特許文献1】登録第1180660号意匠公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

以上の従来技術のうち、ディスクのセンターホールに係合突体を圧入するものは、本来再生装置のスピンドルに装着するためのセンターホールをケースへの固定用に使用していることから、ケースへの着脱を繰り返しているうちにセンターホールに損傷を生じて再生に影響を与えるおそれがあった。又、ディスクのケースからの取り出しに際しては係合突体への圧入力に抗してディスク端を引っ張り上げるので、その度にディスクが撓む問題があった。

【0006】

一方、特許文献1及び非特許文献1に記載の発明においては、前記の問題点は解消されている。しかしながら、特許文献1に記載の発明においてはディスクは係止片と保持体間に挿入することにより保持されるので、その抜け止めのための可動機構（同文献図中符号6）を要し、構造が複雑化する問題があった。又、非特許文献1に記載の発明においては、狭窄された円弧状のアームに狭窄された開口側からディスクを挿入してアームに挾持させる操作が難しいという問題があった。更に、どちらの発明もディスクのケースへの収容作業はケースを開放した状態でなければならないという不便さがあった。

【課題を解決するための手段】

【0007】

この発明は以上の従来技術の問題点を解消した収容ケースを提供することを目的として創作されたものである。

【0008】

即ち、この発明の記録媒体用ディスク収納ケースは、内部にディスクを収容する空間を設けた偏平形状の筐体を、厚み方向の一側に位置する背板片と、表裏方向に位置するケース片とに三分割し、背板片に対して表裏のケース片をヒンジにより擺動自在に連結することにより開放時に見開き状となるように構成したケース本体と、背板片に対して突設して

ディスクを直径方向に摺持するホルダー部材からなり、

上記ホルダー部材は円弧状の内周面にディスクの周縁が嵌入される溝を配することにより円弧の開口側から挿入されたディスクを内周面により摺持する構成とし、

ケースの閉止時にホルダー部材の円弧の開口側が向くケース片の厚み方向に位置する正面壁に、ディスクが上記開口側に向かって進入可能な窓部を設けると共に、被蓋しようとする附勢力に抗してディスクの押圧によりホルダー部材側に押し開き可能な閉止部材により上記窓部を被蓋したこと、

～を特徴とする。

【発明の効果】

【0009】

この発明においては、閉止した収容ケースの正面壁に設けた窓部からディスクをケース内に挿入することにより、対向する背板片に突設されたホルダー部材の円弧の開口側からディスクがホルダー内に進入して摺持される効果を奏することとなる。そして、この場合、ケースの窓部にディスクが摺接することによりディスクの挿入位置が規制されるので、誰でも確実にケース内部のホルダー部材にディスクを挿入することができ、しかも、この作業はケースを閉止したまま行うことができるので、使い勝手のよい収容ケースが実現される。

【0010】

一方、ディスクの取り出しにあたっては、ケースを見開き状に開放することにより、背板片に突設したホルダー部材は起立することとなり、容易にディスクを摘んで引き出すことが可能となる。

【0011】

又、ケースの窓部は閉止部材により被蓋されるので、閉止したケース内に埃や異物が侵入することが防止され、一方、窓部に挿入するディスクは被蓋しようとする附勢力に抗して上記蓋部をホルダー部材側に押し開くので、使用者は挿入にあたり適度の手応えからなる確実な操作感を感じることが可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、この発明の具体的実施例を添付図面に基づいて説明する。図1はこの発明の収容ケースを開放した状態を示す図、図4は収容ケースを閉止した状態を示す図、図5乃至図8は閉止した状態の収容ケースの内部を示すために表側ケース片を省略して表した図である。

【0013】

図中符号1はケース本体を指し、このケース本体1は内部にディスクを収容する空間を設けた偏平形状の筐体（ここでは矩形のものを例示している）を、厚み方向の一侧に位置する背板片2と、表方向に位置するケース片10と、裏方向に位置するケース片3とに三分割し、背板片に対して表裏のケース片をヒンジ2B、2Aにより擺動自在に連結することにより開放時に見開き状となるように構成される。このケース本体1はここでは柔軟性を有するプラスチックにより一体成形しており、表裏のケース片10及び3と背板片2との境目を一線状の薄肉部とすることによりヒンジ2B、2Aとしている。又、表裏のケース片10及び3は背板片2側以外の三方の縁を壁状に立ち上げることにによりケース状に構成されるものであり、そのうちの正面壁には後記する窓部を構成する切り欠き11及び4が配される。尚、ここでは裏側のケース片3の三方の壁の上端に内側に変位して壁状の挿入部3Aを突設すると共に、表側のケース片10の三方の壁の上端内側にケース本体の閉止時に上記の挿入部3Aが挿入される凹部10Aを設けることにより、ケース本体の閉止時に表裏のケース片同士が互いの挿入部及び凹部箇所において嵌合するようにしている。尚、図示しないが、それに加えてケース本体の閉止時に表裏のケース片同士を係止する手段を設けてもよいことは勿論である。

【0014】

図中符号20はディスクDを直径方向に摺持するためのホルダー部材である。このホル

ダー部材 20 は円弧状の内周面にディスク D の周縁が嵌入される溝 23 を配することにより円弧の開口側から挿入されたディスクを内周面により摺持する作用を有するものであり、この実施例では開口側が狭窄された円弧状、即ち C 字状のアーム 21 によりホルダー部材を構成すると共に、開口側から挿入されるディスク D がアームの狭窄箇所を押し広げながらアーム内周に嵌入可能なように（図 7 参照）ホルダー部材を弾性を有するプラスチックにより構成している。上記のホルダー部材 20 はケース本体 1 の背板片 2 に突設されるが、この実施例ではホルダー部材の底部の両側から突設した枢軸 13、13 を背板片から突設した軸受け 22、22 に軸着することにより、ケースの開放時にホルダー部材が表裏のケース片の揺動方向に揺動可能としている。この場合、ディスク D の取り出しにあたってはホルダー部材 20 は起立していないと使い勝手が悪いので、上記の揺動範囲をホルダー部材が表裏のケース片に重ならない範囲内に規制するよう、当接によりホルダー部材の一定限度以上の揺動を阻止するためのスットパー部材 14、14 を背板片 2 から突設している（特に図 2 参照）。

【0015】

図 4 において、図中符号 W はケース本体 1 の閉止時にディスク D が前記のホルダー部材 20 の円弧の開口側に向かって進入可能なように表裏のケース片 10 及び 3 の正面壁に開口される窓部であり、前記したように表側のケース片 10 の正面壁に設けた切り欠き 11 と裏側のケース片 3 の正面壁に設けた切り欠き 4 により構成される。図中符号 5 は上記の窓部 W の裏側に配される閉止部材である。この閉止部材 5 は窓部 W を被蓋する形状を有し、両側から突設した枢軸 6、6 を裏側のケース片 3 から突設した軸受け 8、8 に軸着することにより、窓部 W の開閉方向に揺動自在としている。この場合、閉止部材 5 を窓部 W の被蓋方向に附勢するためにねじりコイルバネ 7 を枢軸 6 に巻装する（図 3 参照）。

【0016】

以上の構成からなる記録媒体用ディスク収納ケースの使用法は次の通りである。

- (1) ケースが閉止した状態でディスク D をケース本体正面の窓部 W からケース本体内に挿入する（図 4 及び図 5 参照）。
- (2) 挿入に従い、ディスク D 端により窓部 W を被蓋していた閉止部材 5 が押し倒される（図 6 参照）。尚、この実施例においては窓部 W を通過したディスクが上下に移動しないように表裏のケース片 10、3 のそれぞれに摺動レール 12、9 を突設している。
- (3) 更に、ディスク D を挿入することにより、ディスクがホルダー部材 20 のアームの狭窄箇所を押し広げながらアーム内周に嵌入される（図 7 参照）。
- (4) 嵌入が完了した後は、アームの狭窄箇所によりホルダー部材 20 の開口方向へのディスク D の離脱は防止される（図 8 参照）。
- (5) ケース本体 1 を見開き状に開放することにより、ディスクを摺持したホルダー部材 20 がケース本体 1 の背板片 2 上に起立するので、この状態でディスク D をホルダー部材から引き抜く。この場合、ホルダー部材は前後に揺動可能なので引き抜きやすい位置に傾けることが可能である。

【図面の簡単な説明】

【0017】

- 【図 1】 この発明の記録媒体用ディスク収納ケースの開放時の斜視図。
- 【図 2】 図 1 の A-A 線矢視図。
- 【図 3】 閉止部材の分解斜視図。
- 【図 4】 この発明の記録媒体用ディスク収納ケースの閉止時の斜視図。
- 【図 5】 同上、一部切り欠き斜視図。
- 【図 6】 同上、一部切り欠き斜視図。
- 【図 7】 同上、一部切り欠き斜視図。
- 【図 8】 同上、一部切り欠き斜視図。

【符号の説明】

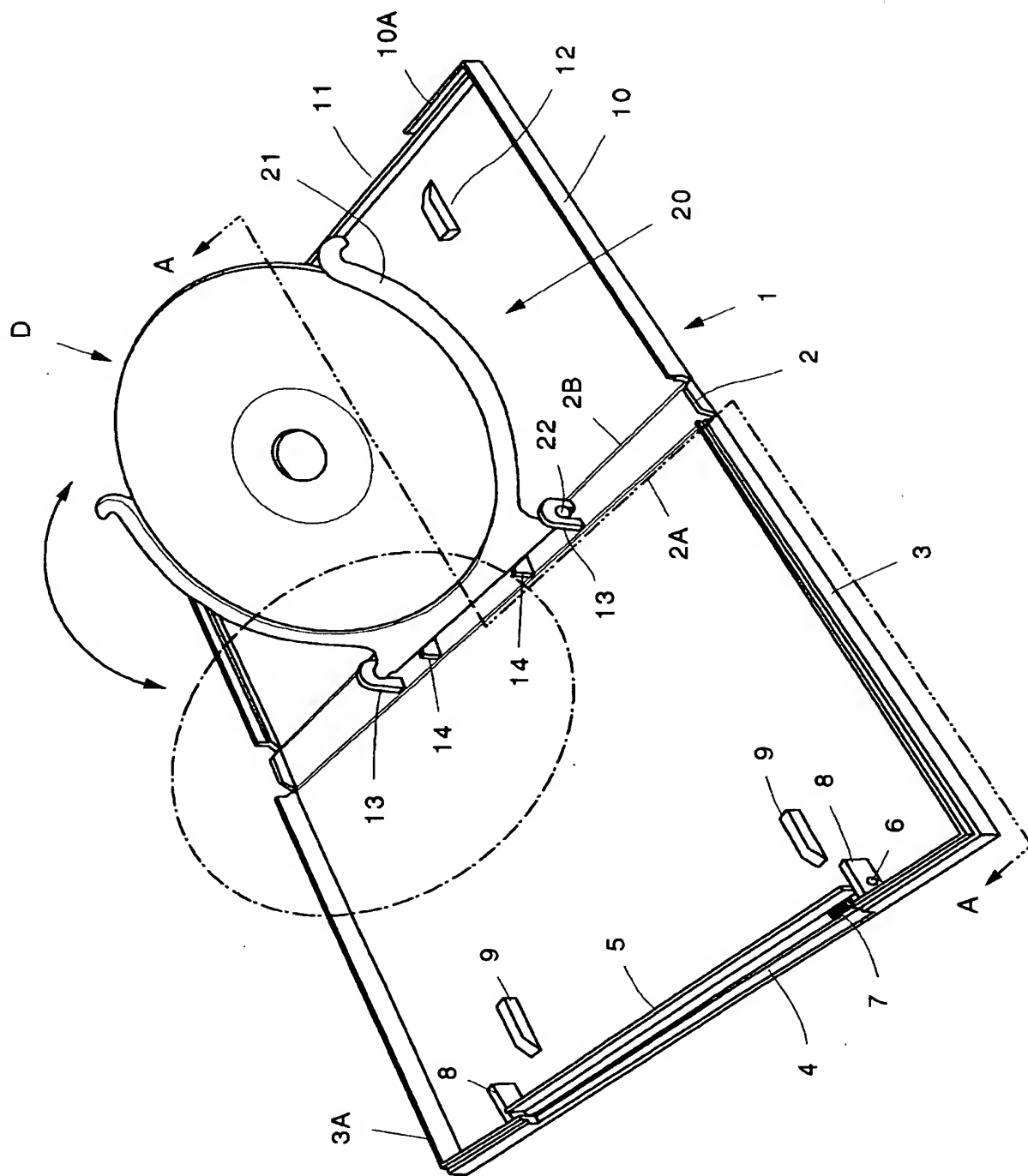
【0018】

D ディスク

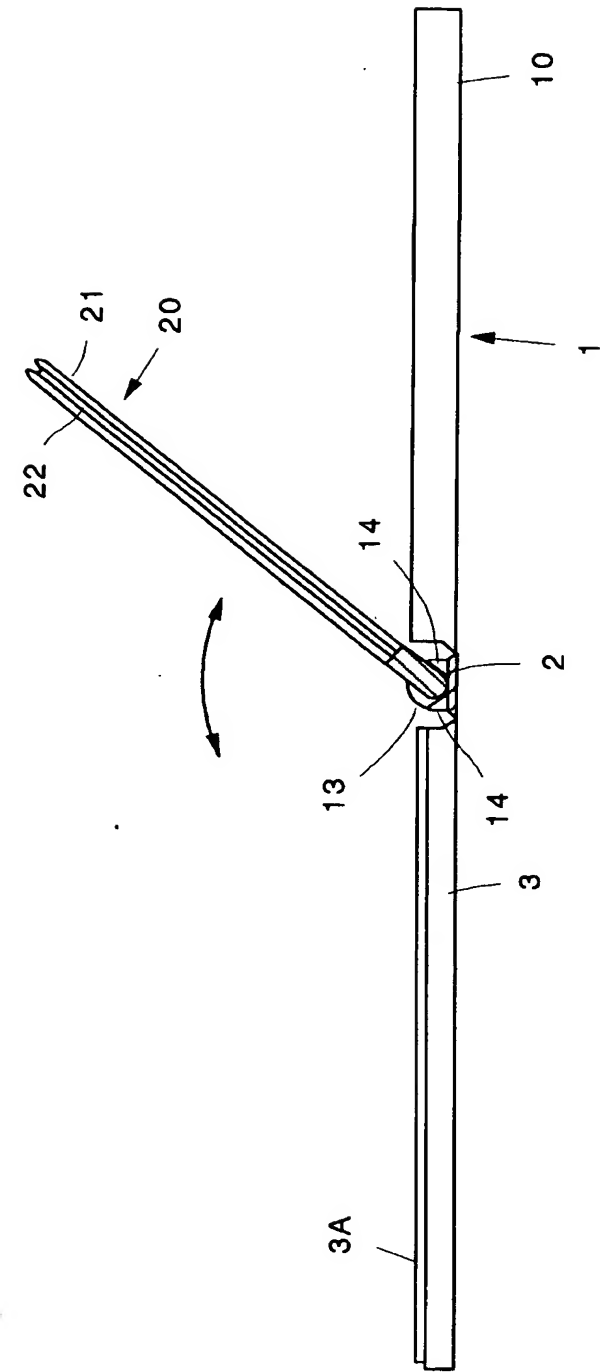
W	窓部
1	ケース本体
2	背板片
2 A	ヒンジ
2 B	ヒンジ
3	裏側ケース片
4	閉止部材
1 0	表側ケース片
2 0	ホルダー部材
2 3	溝

【書類名】 図面

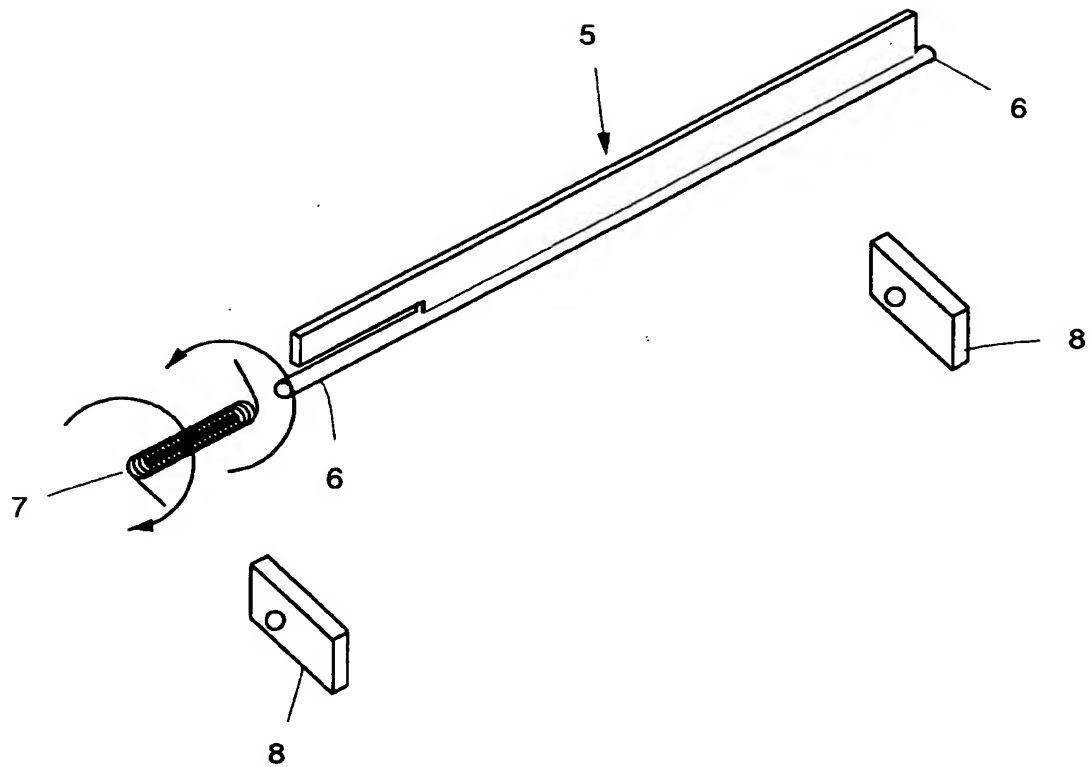
【図 1】



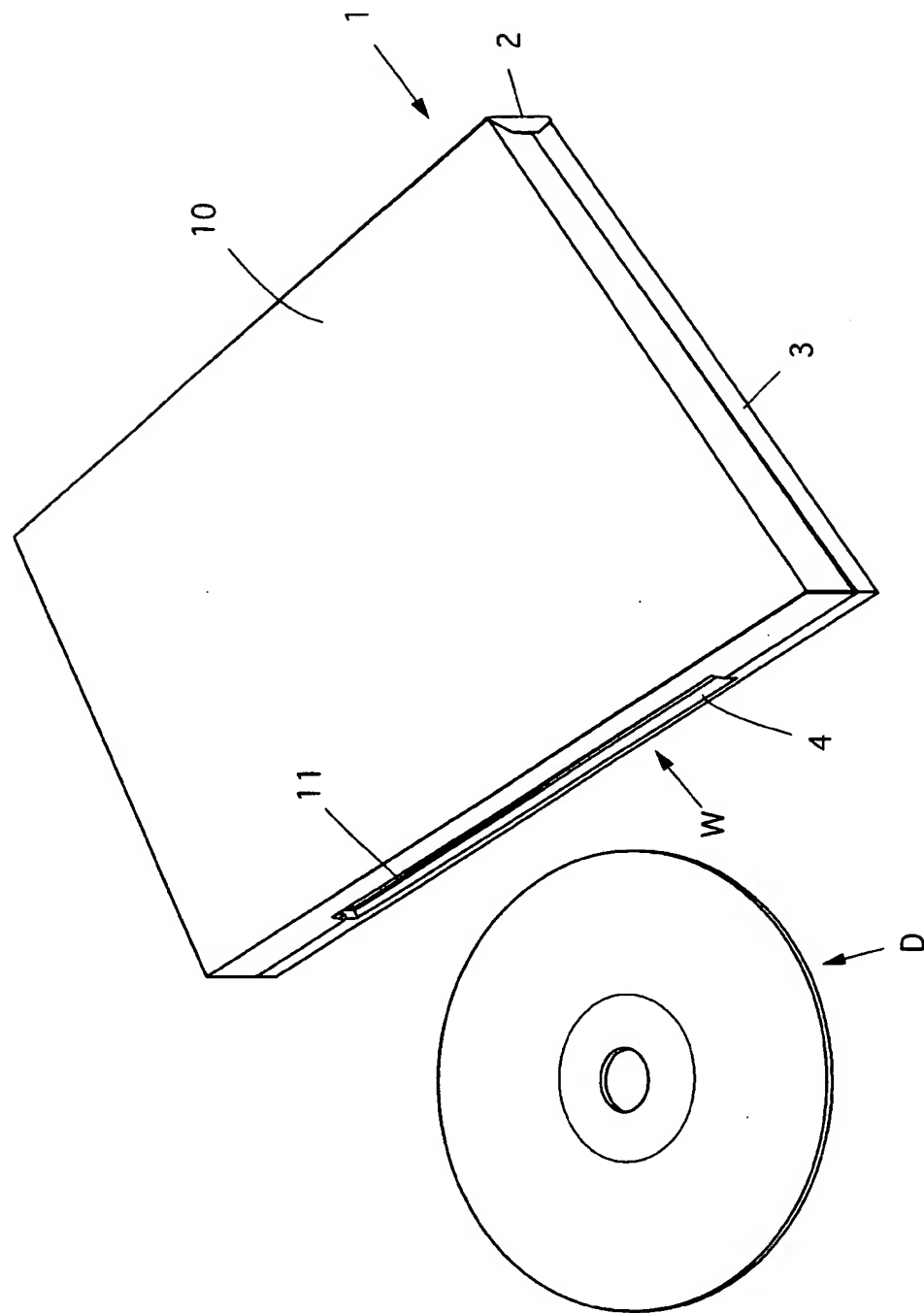
【図 2】



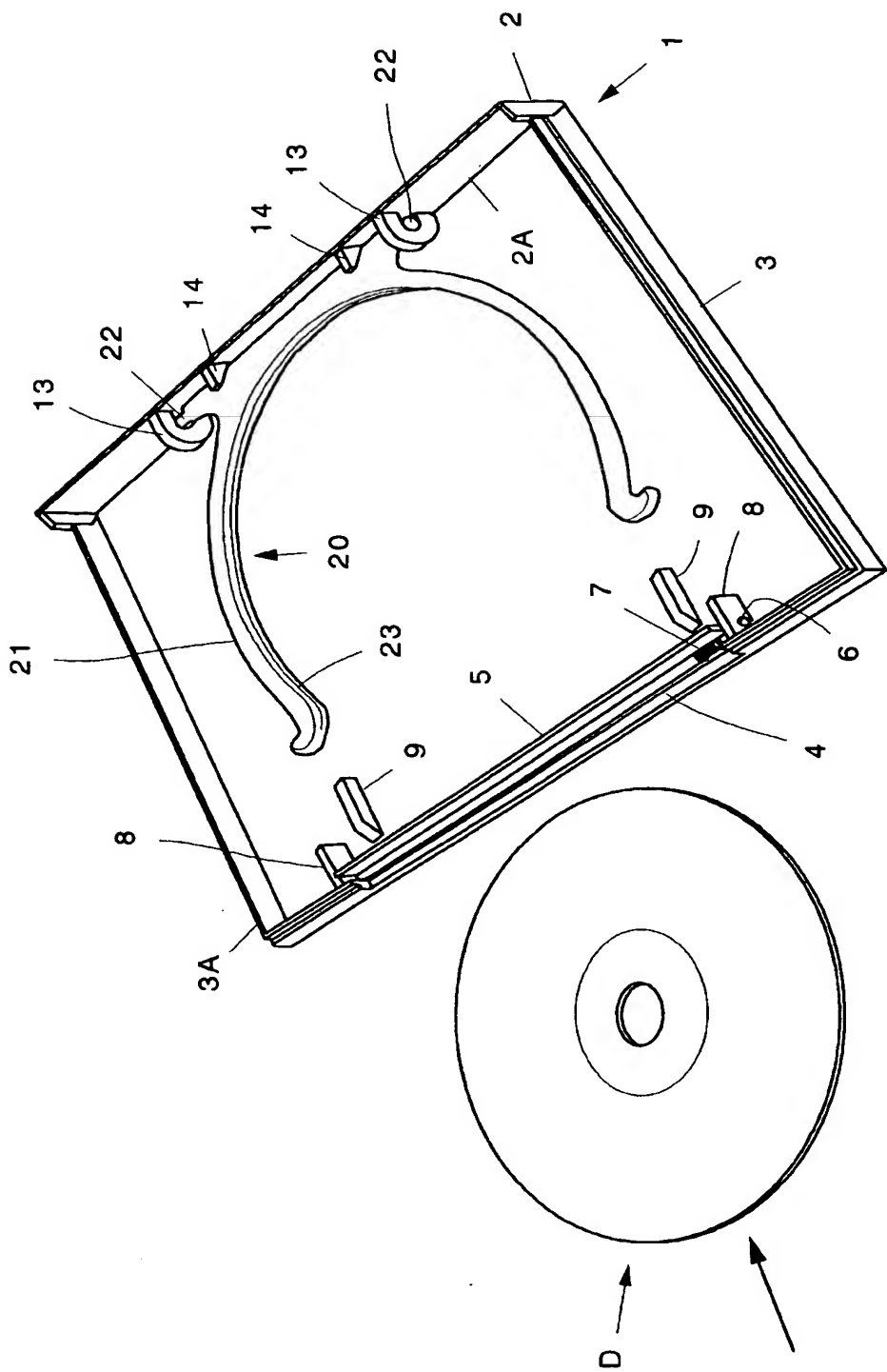
【図 3】



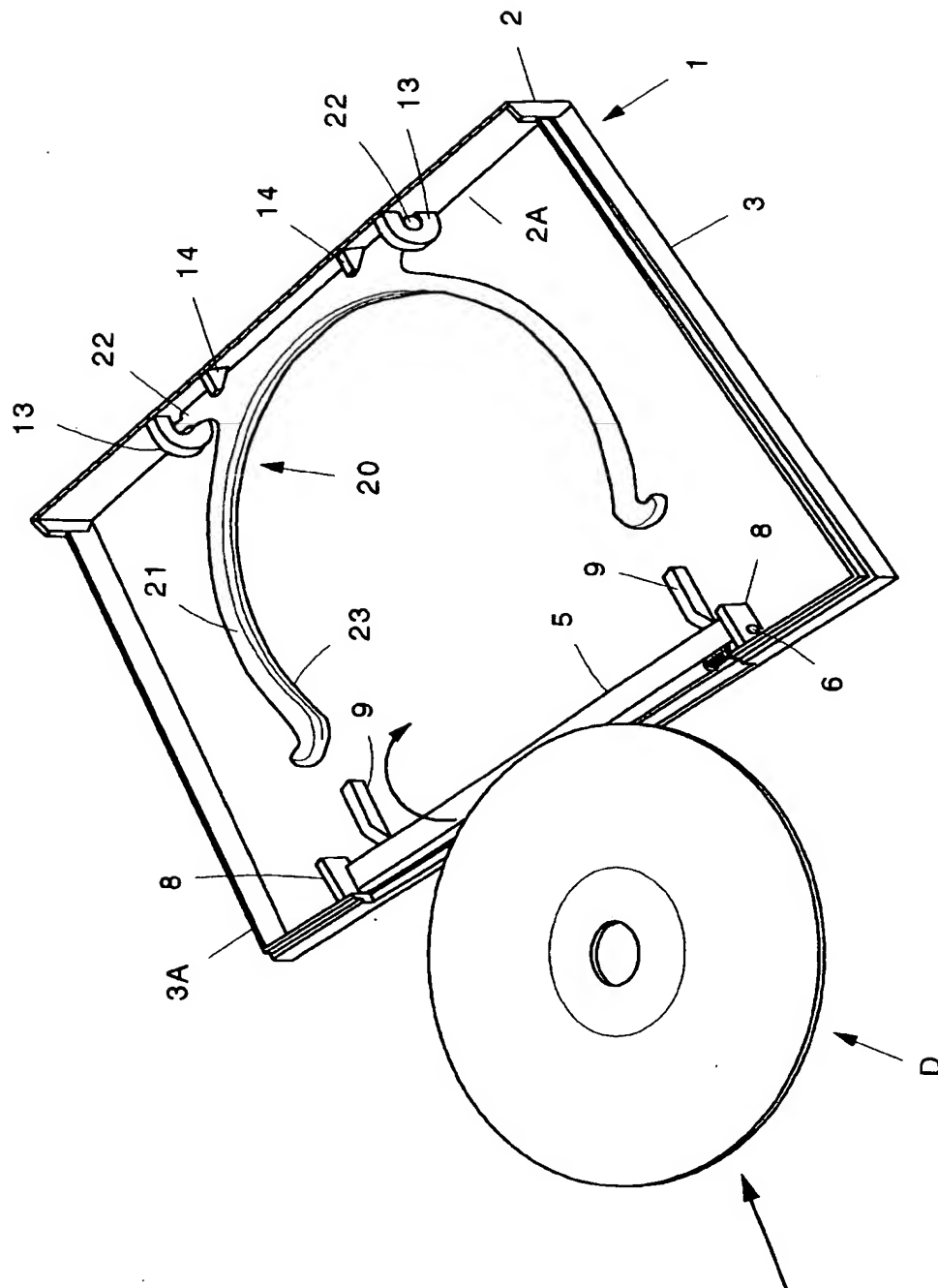
【図 4】



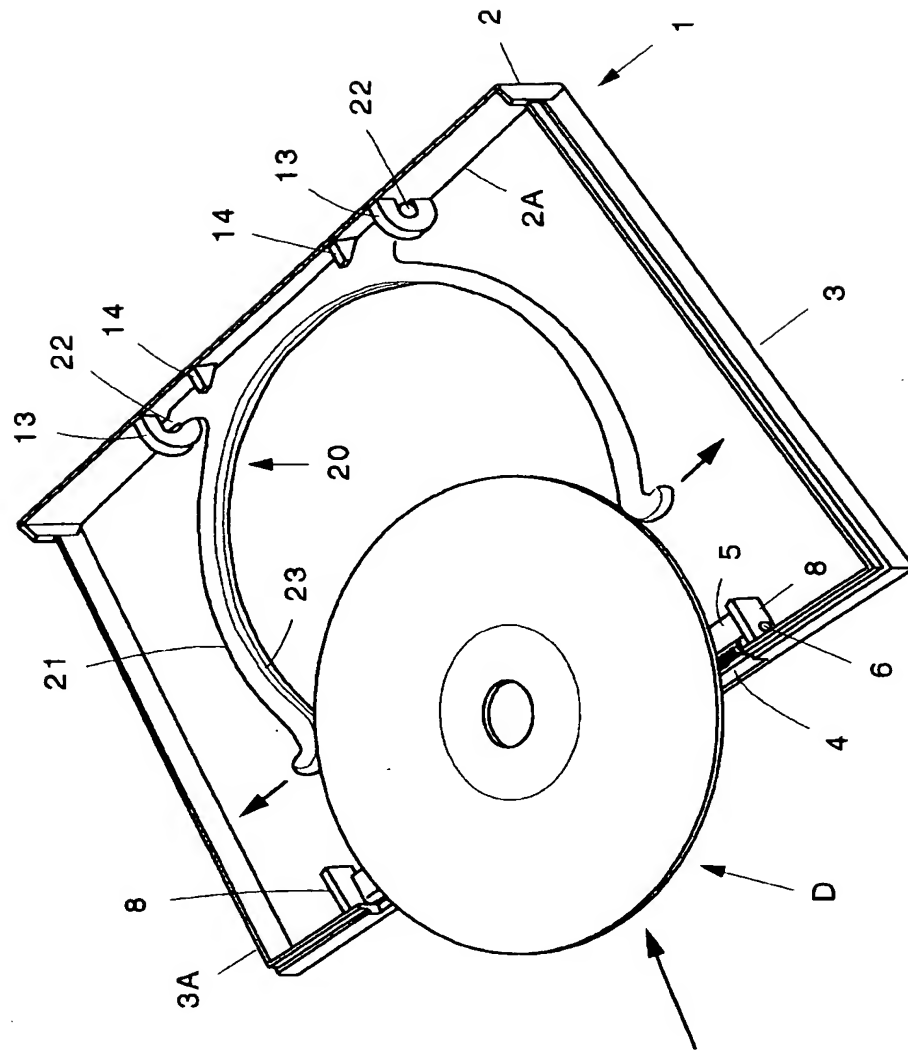
【図5】



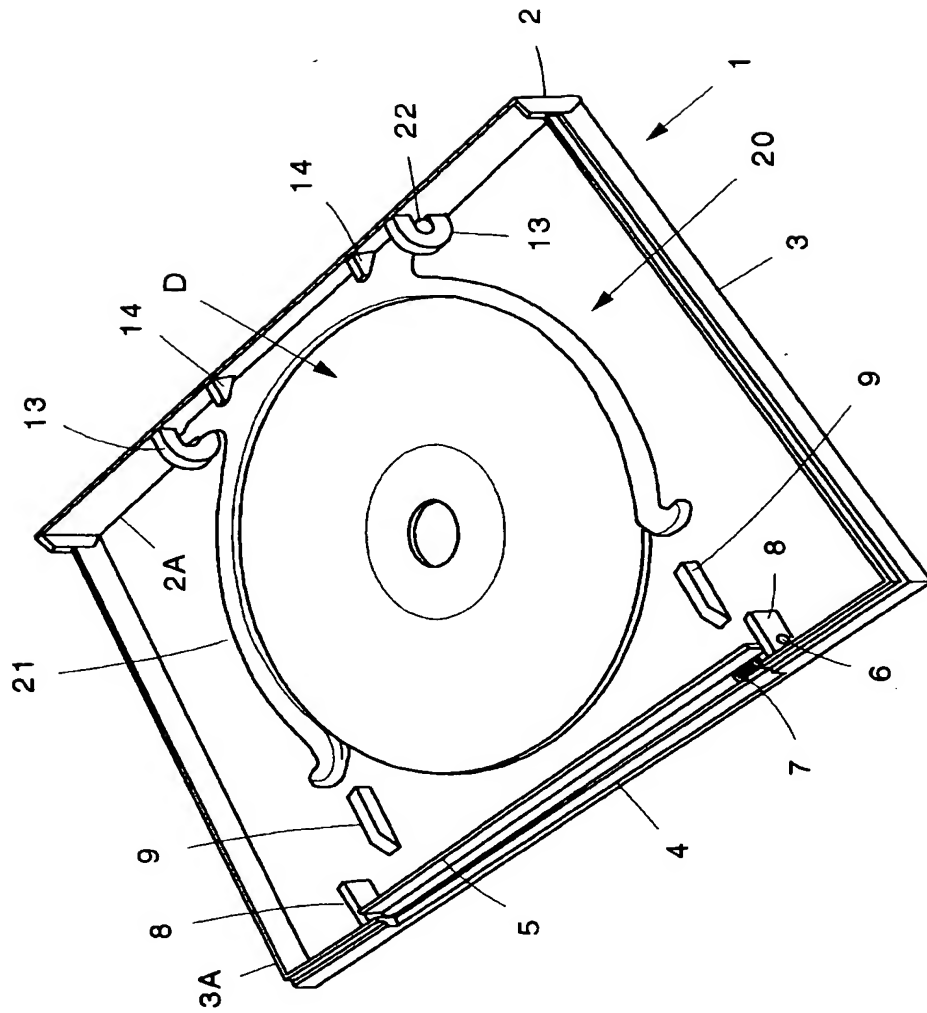
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ケースを閉止した状態でディスクの収容を容易に行えるようにする。

【解決手段】 厚み方向の一側に位置する背板片 2 と、表裏方向に位置するケース片 10、3 とに三分割し、背板片に対して表裏のケース片をヒンジ 2A、2B により擺動自在に連結することにより開放時に見開き状となるように構成したケース本体 1 と、背板片に対して突設してディスク D を直径方向に摺持するホルダー部材 20 からなり、上記ホルダー部材は円弧状の内周面にディスクの周縁が嵌入される溝 23 を配することにより円弧の開口側から挿入されたディスクを内周面により摺持する構成とし、ケースの閉止時にホルダー部材の円弧の開口側が向くケース片の厚み方向に位置する正面壁に、ディスクが上記開口側に向かって進入可能な窓部 W を設けると共に、被蓋しようとする附勢力に抗してディスクの押圧によりホルダー部材側に押し開き可能な閉止部材により上記窓部を被蓋する。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-302132
受付番号	50301409558
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成15年 9月 1日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年 8月26日
-------	-------------

特願 2 0 0 3 - 3 0 2 1 3 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [5 0 2 2 0 2 8 0 1]

1. 変更年月日	2 0 0 2 年 6 月 6 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都中央区東日本橋 1 丁目 2 番 1 0 号
氏 名	株式会社レッツ・コミュニケーションズ